

ちょうふの自然だより

ちょうふ環境市民会議 <http://chofu-kankyo-shimin.org> 発行部数：1000部

若葉の森は蘭の花ざかり



キンラン



シュンラン

キンランよりひと月早く咲く。



ササバギンラン

瓦礫の山に咲いた。ギンランと似ているがササバギンランの花は葉の先より上に出ない。(花軸が短い)



3月下旬、コナラの多い林はお日さまがいっぱい。キンランが自生する場所は、近くで伐採した竹でつくった柵で保護している。

大型連休の頃は、若葉の森にとっても特別な時期です。新緑の下、キンランやギンランが花開き、森が華やかに彩られます。

今年4月26日には、5ヶ所でキンラン43株、ギンランとササバギンラン39株を数えることができました。毎年、株数が増えているようです。「若葉の森3・1会」「若葉緑地の会」の活動が寄与していると思われる。

若葉の森には、①コナラなど落葉樹が多く冬の間、地面にたっぷり陽光が注ぐ林と、②シラカシなど常緑樹が多く一年中、少し暗い林があり、①にはキンラン、②にはギンランが生育。そういう住み分けは知っていましたが、この春、改めて感心させられたことが。

若葉の森の一面の、長い間、放置され暗い藪になっていた林で1月に間伐・下刈が行われ、明るい疎林に変貌しました。すると、4月下旬にササバギンランが10株以上も見つかったのです。1月までは、ほとんど陽が差さなかった場所。

所。しかも、コンクリートの瓦礫の山に「敢然と」根を下ろした株も発見。樹上に着生するランの仲間も多いので、土がない所も案外平気なのかもしれません。しかし、地下の菌類と繋がっていることは確か。やっばり、すごい。

この林、来春以後、ササバギンランの分布がどうなるのか。林縁部には数株のキンランもあるので、明るい林になったのを機にキンランが一気に領地を拡大するのでしょうか。

(大村哲夫)

調布の生き物 虫編

カブトムシ

日本の夏の風物詩の一つとして思い浮かぶのが「カブトムシ」と「クワガタムシ」のワンセット。このうち、カブトムシはメスの姿からわかるように、コガネムシ科のほんの一部にすぎず、日本国内でもカブトムシをはじめ数種(亜種)しか見られません。しかし、その名のおり、戦国武将の兜を思わせる立派な角を持ったオスは、特に男子の根強い人気を集めています。

カブトムシの成虫は、日中は木の根元に溜まった腐葉土中等に潜み、夜になると樹液を求めて活動します。この腐葉土は親が隠れるだけでなく、産卵場所や幼虫の生息場所としても重要であり、掘ることで卵をつぶしたり幼虫を傷つけたりする恐れがあることから、むやみやたらと掘り返さないようにすることが重要です。また、成虫の寿命は概ね1〜3ヶ月であり、成虫が冬を越すことはできません。このように親は長生きできませんので、できれば見つけてもそっと見守るだけにしてあげて下さい。



カブトムシを探して掘り返した根本の土は、必ず埋め戻してね

(石川和宏)

花の履歴書 27

戸部英貞 (絵・文)

ムラサキツメクサ 紫詰草 マメ科



Trifolium pratense L.

ロツメクサ領域にも侵入し、入れ替わりを起している。多摩川の河川敷には、原産地を同じくする寄生植物のヤセウツボが寄生している株を良く見かける。

ヨーロッパを原産地とするが、牧草として世界中の温帯域で栽培され、各国で逸脱帰化している。わが国でも明治時代初期、飼料用作物として導入され、各地で栽培されてきた結果、現在では市街地の道路脇から河川敷、山岳地帯まで野生化したものが見られる。

河川敷を歩くと、冬の間はロゼット状に地面に張り付いて、シロツメクサと見間違える姿をしているが、気温が上がるにつけ、背丈を高く伸ばし、茎の頂に蝶形花を球形に集めた淡紅色の花を咲かせる。

繁殖力も旺盛で、株元から幾つもの枝を伸ばし、踏みつけられない場所ではシ

マメ科の帰化植物の多くは飼料用に導入されたアカツメクサ、シロツメクサ、セイヨウミヤコグサ、ナヨクサフジなどのほか、緑肥として古い時代に導入され、逸脱したレンゲソウ、ヤハズエンドウ、薬用植物として持ち込まれたエビスグサ、ハブソウ、観賞用として導入されたベニバナツメクサ、オジギソウ、ヒロハレンリソウのほか、羊毛や綿花に種子が付着して侵入したもの、食用種子などに混入して帰化したものなどがある。

多摩川ではアカツメクサ、シロツメクサ、コマツブツメクサ、セイヨウミヤコグサ、ナヨクサフジ、ハリエンジュなどが観察される。



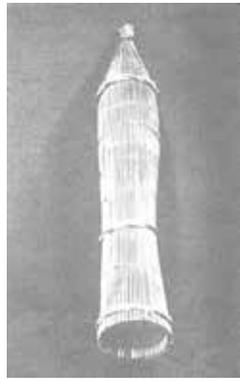
5月は田んぼの準備
● 水路清掃
● 荒起こしと、堆肥入れ
田んぼ全体を耕運機で荒く耕します。
堆肥置き場から堆肥を田んぼに運び渡さ込みます。
● 畑と畦の草刈り
くろつけを行うために、畦の草を刈り取ります。畑の草取りも一緒に行います。
● くろつけ準備
畦の整理(昨年くろつけで盛った土を削ったり、崩れている部分を補修)を行ない、畦にそって水を引き込みます。
※写真は5月30日 水を引き入れているカニ山前農家の田んぼ

漁具を使った魚取り

◆榎本勉さんのお話
昭和13年上ヶ給(国領町あたり)生まれ

◇ウナギ捕り

昔、羽毛田の川(現在の根川のこと)にウナギ笥(ウナギドウ)を仕掛けたことがある。中には竹藪にいた太くて長いミミズを15匹くらい入れて夕方しかけ、朝上げに行く。そのときは捕れなかったが、親父は大正時代から昭和50年頃まで漁業組合員で、やはり田んぼの川や多摩川に仕掛けたものと思う。当家の使っていたウナギ笥は長さ75センチ、太さ10センチ5ミリの大きさだった。



ウナギ笥

◇ドジョウ捕り

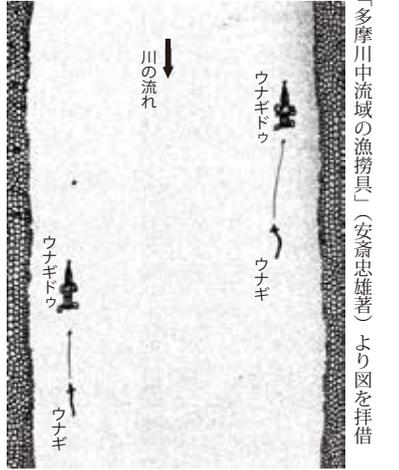
古くはドジョウブチ(長い柄のついた針金のブラシのような物)という道具を使いカンテラを照らし月夜の晩にドジョウを捕ったと伝えられているが私は使ったことはない。

私が子どもの頃は田んぼの水口に竹でできた長さ55センチ太さ15センチのドウジョウ笥(ドジョウドウ)を仕掛けた。冬は泥の中にもぐっている泥ごとすくって地面に揚げ、ドジョウだけ手づかみで捕ったりもした。

多摩川にもオイノメドジョウ(シマドジョウのこと)というドジョウが、川底に水が湧いていて砂がたまっているような所にむらがついていた。これを捕るのもドウジョウ笥か、雑漁笥が使われていたのではないかと思う。このドジョウは太くて泥臭くなくてその上卵をもつていてとてもうまかった。エサにはタニシを砕き、入り糠と田の泥を混ぜて団子にして入れたようだ。



ドジョウ笥



「多摩川中流域の漁撈具」(安齋忠雄著)より図を拝借

※ドジョウブチ
私の父親が木綿針を櫛状に並べ、ブリキの板ではさんだ櫛を作り、夜の田圃に産卵に来るナマズを捕りにカーバイトのカンテラを下げて出かけた記憶があります。当時は祭りの夜店などではどこもカーバイトのカンテラを使っていました。

戸部英貞

5月17日(土) 平成25年度の開校式が市役所・漁協などからも参加いただき行われました。参加児童は44名。保護者スタッフ33名、計77名です。

その後、ガサガサです。河原では護岸工事でしょうか、シヨベルカーなどが活動していました。天気は快晴! 水量はやや少なめ。水温も少々低め。といった中、児童たちは元気にガサガサを楽しみました。



調布水辺の楽校 開校式

オイカワ、ギンブナ、メダカ、トウヨシノボリ、ハグロトンボ(ヤゴ)、ヒゲナガトビケラ、コオニヤンマ(ヤゴ)、サナエトンボ科(ヤゴ)、シマドジョウ、ヌカエビ、ウグイ、モクズカニ

今回は16種類と魚種も少なめでした。残念ながら遡上している稚アユも確認は出来ませんでした。が、水辺の楽校は、今年度も夏に冒険(アドベンチャー)多摩川、秋にクリンアップと芋煮、冬はバードウォッチングを行い、児童たちと自然の楽しさ怖さ安全性など学んでいきます。

水辺の楽校サポーター・池ノ内伸行

ちょうふの崖線樹林を守る

入間・樹林の会

4月20日(日) 晴れ、参加者9人

春の方形桝調査と植物観察を行った。根本さんから新会員へ調査方法の説明の後似た植物同士の見分け方を聞きながらゴミ拾いをし、樹林地内を巡回した。マテバシイ広場が伐採により明るくなったためキランソウがあちこちで咲き、クズも勢力を増してくるなど植生の変化を感じた。

花・シヤガ、ムラサキケマン、ヤブニンジン、ニリンソウ、ヤブヘビイチゴ、クヌギ、ハルジオン、タチツボスミレ、アオキ、ウラシマソウ、キランソウ、ヤブタバコ 実・アオキ 鳥・メジロ、シジュウカラ、ハシブトガラス。

午後、有志でN・T・T裏雑木林の観察会も行った。キンランを確認。



シダの観察

5月18日(日) 晴れ、参加者9人

アカメガシワ・マテバシイ・クズなどの成長が早く、4月に群生していたキランソウは見あたらなない。

民家との境界の下草刈り、4月にできなかった雪で折れた枝の片付け、隣家からの竹のはびこりの伐採をした。早目の作業が必要である。高校生が1人いるだけで、作業がはかどることがうれし。

花・キランソウ、コオニタバコ、ヒメジオン、サツキ鳥・アオゲラ、カワラヒワ、ヒヨドリ、シジュウカラ

(安部)



カニ山の会

4月12日(土) 晴れ 参加者6名

2月15・16日の大雪により、下段通路横のスタジイ、トウネズミモチの枝折れが残っていたので安全及び景観のため、折損部の撤去を行いました。

また下段のササ刈りと、ツゲ等の常緑樹が大きくなってきており、陽ざしがさえぎられるため、林床を明るくするための剪定も行いました。(活動報告より)



コナラなどの若葉

シュンラン

5月10日(土) 晴れ 参加者7名

通路に倒れる恐れのある枯木を伐倒。樹高10m以上の大木のため安全には十分配慮を行った。その後ドングリ苗圃のハルジオンなどの草刈。

同日、調布駅前で開催のアースデイのため、「ちょうふ環境市民会議」ブース用にタケを切り出して届け、4名がコップづくりなどクラフトコーナーのお手伝いをした。(K)



ミズキに群がるムシ

キンラン

ハルジオンがはびこる

若葉の森3・1会

4月6日(日) 曇りのち雨 参加者6名

桜が満開でした。前半は、第1緑地で、雪で折れた枝を利用してコンポスト柵の補強。中央部通路の階段の土留め補強。後半は、第2緑地でアズマネザサの刈り取り。



満開のヤマザクラ

コンポスト柵補強

5月4日(日) 晴れ 参加者7名

キンランが通路脇にまで咲いていました。前半は通常作業。ゴミ拾い、小枝伐採、六別坂と緑地内の通路や階段の落葉かきを行い後半に備えました。後半は、当地で開催された雑木林ボランティア講座第1回に加わり、小池先生からキンラン、ギンラン、木々の植生、草花の観察、竹の伐採の仕方を学びました。



落ち葉かき

竹伐採作業

◆若葉の森で歌う会(第8回)

5月11日(日) 第1緑地で開催。好天に恵まれ参加者39名飛び入りも。歌声やハーブの曲が森に響きました。(N&K)。



ハーブ演奏

ムシ・虫・葉っぱ

写真提供：中原 / 北谷



参考までに、これは昨年カニ山で撮影されたハゴロモの仲間の幼虫



上の2枚がクワキジラミ
下の写真に写る黒い卵はカメムシの仲間の卵



ヤハズカミキリ

深大寺五差路近くの雑木林。5月24日、入口近くのパーゴラの所にいると、フワフワと白いものが舞ってきた。

「なんだろう？ポプラの綿毛とは少し違うね。」一人が「あ、これだ。」と大きなクワの樹の葉裏を見ている。「ほんとだ。」撚られた糸のように何本も葉から垂れ下がっている物や綿のように葉裏についているもの。そしてごく小さなムシが何匹がうごめいている。

後日ひとに聞いたり、ネット検索したりで「アオバハゴロモ？ワタムシ？」と候補があがったが、「アオバハゴロモはもっと上品です！」

熱心に検索を続けてくれた仲間が「これだね。クワキジラミ」名前からしてトリハダものですが害虫のようです。でも疑問が解決して一同スッキリ！



ヤマボウシの葉の上で熱心に蜜を舐めるチョウ。白化型のアカボシゴマダラか？

同日、ヤマボウシの葉の上にゴマダラチョウらしきチョウがとまって、ストロー状の口を出している。

「まさか葉っぱの水分を吸っているわけでも無いだろうし。」葉の表面が光っているね「あれ？甘い。これを舐めているのかしら？」

「初めて気づいたね。ホウの葉っぱも光っている所は甘いわ」

後日これも人に聞き「アブラムシの分泌物だよ。」「え〜！」そしてネット検索してくれた仲間によると「花由来ではない蜂蜜、甘露蜂蜜というのものもあるそうよ。」

また関東地方のアカボシゴマダラは春には白化といって赤い紋が無い、白っぽい物が出現するそうです。という訳でこれもアカボシゴマダラだったかもしれない。

そしてテーブルに落ちてきた見慣れない小さなカミキリムシは「ヤハズカミキリ」と判明。

80万種以上と言われている虫達のほんの数種の名前を知りました。

(K)

ちょうふあちこち



布多天神横の木にかかげられた注意書き。「日本ミツバチの巣があるので保護しましょう」

まだここで見た事はないのですが、在来種の日本ミツバチがいるのなら嬉しいですね。

5/4 (日) 雑木林ボランティア講座



若葉の森3・1会の協力で、小池講師の解説を聞きながらキンランの咲く崖線樹林地を観察した。(1頁参照) 今回は14名の受講生を含む20数名が参加。

その後樹林地内の竹林で竹の伐採実習を行った。

写真上、講師の解説を聞きながらたくさんのキンランが咲いた樹林内のようなすを観察。

左は竹林の竹の切り出し実習。残った切り株には切れ目を入れることで、早く腐らせ、しかも蚊の発生を防止する。

編集後記

5月末日からの突然の暑さ。1面の記事を戴いたときはまだ春の名残があったのに。ともかく青々とした草や緑の葉が茂る雑木林は最高です。

昔ながらの省エネ暮らしを参考に今年も緑のカーテン育てます。(K・E)

042-481-7083

先4つの活動への参加、その他は緑と公園課へお問合せ下さい。

若葉の森3・1会

原則毎月第1日曜に若葉町3丁目第1・2緑地で保全活動を行っています。参加希望者は直接現地へ。

- 6 / 8 (日) 9:30 ~ 12:00
- 7 / 13 (日) 9:30 ~ 12:00

若葉緑地の会

原則毎月第2日曜に若葉町3丁目第3緑地で保全活動を行っています。参加希望者は直接現地へ。

- 6 / 14 (土) 10:00 ~ 12:00
- 7 / 12 (土) 10:00 ~ 12:00

カニ山の会

毎月第2土曜に自然広場で保全活動を行っています。野草園横直接集合

- 6 / 15 (日) 9:30 ~ 12:00
- 7 / 20 (日) 9:30 ~ 12:00

入間・樹林の会

原則毎月第3日曜に樹林の保全活動を行っています。参加希望者は直接入間地域センターへ。

環境市民活動スケジュール

市民発 ちょうふの自然だより

◆「ちょうふの自然だより」はカンパとボランティアで支えられています。2009.3.15に設立された市民団体「ちょうふ環境市民会議」が発行しています。隔月で1000部発行。調布市内の身近な自然情報や市民の保全活動の記録、環境イベント案内、コラムなどを掲載。市民会議ホームページにバックナンバーを掲載しています。併せてご覧下さい。

“自然だより”の置き場所

◆地域福祉センター、たづくり 11F みんなの広場、調布市環境部(市役所8F)、あくろす 2・3F、郷土博物館、実篤記念館、多摩川自然情報館のほか、神代植物公園植物多様性センター、野菜食堂みさと屋さんなど。置き場所&応援カンパ募集中です！

発行：ちょうふ環境市民会議 連絡先：info@chofu-kankyo-shimin.org ※携帯メールでのお問合せには当方の返信が届かない場合があります。

◆この自然だよりは ちょうふ環境市民会議ホームページにも掲載しています◆